

遺跡発掘のながれ

① 遺跡は水田や畑の下に埋もれているため、パワーショベルを使って表土を取り除きます。



② 地面を少しずつ削っていきます。遺構（建物や溝の跡）の土は周囲の土と土質や色が異なるので遺構の輪郭が現れます。



③ 遺構に入り込んだ土を掘っていきます。遺物（土器など）が見えたら、壊さないように丁寧に土を取り除きます。



④ 土を取り除き、遺構が掘り上がったら、写真や図面でその様子を記録します。



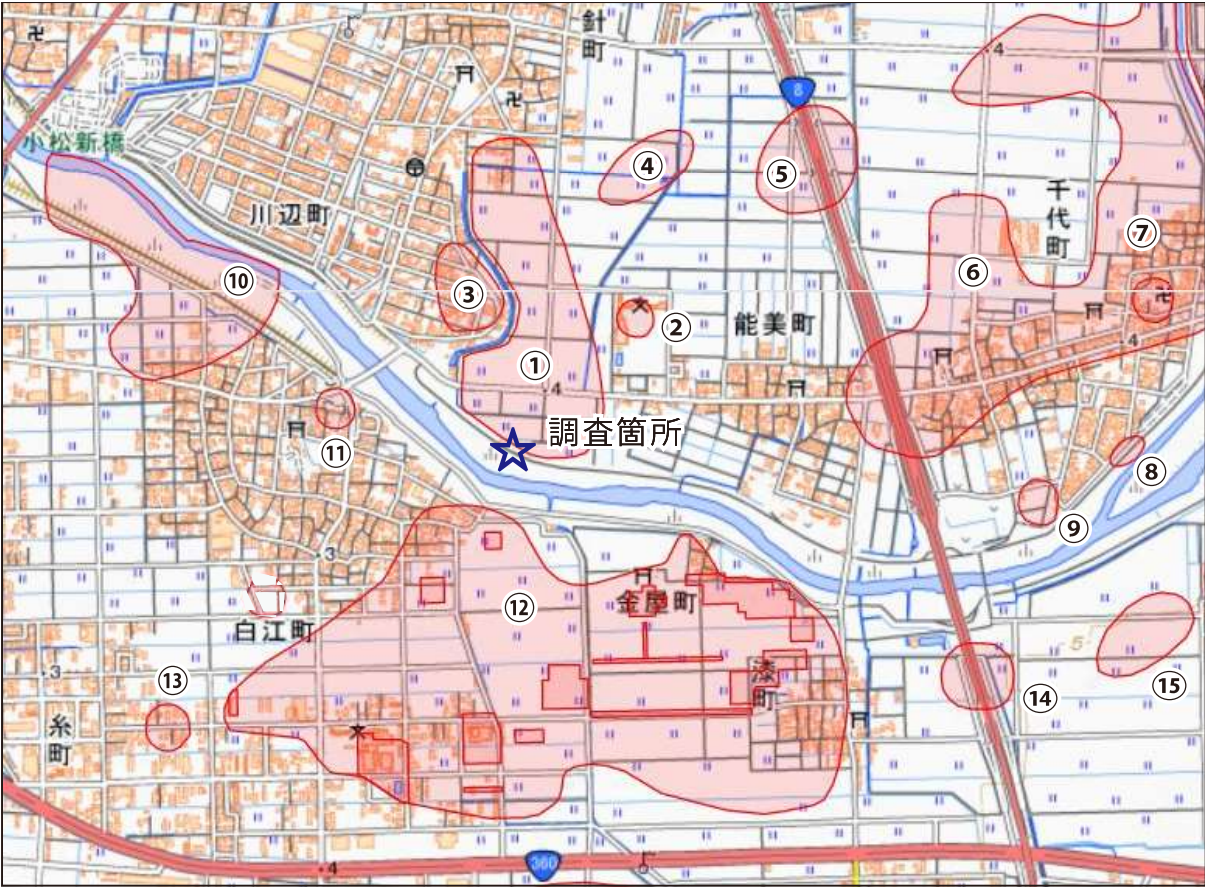
⑤ 調査区全体の写真を撮影します。3Dカメラやドローンなどで上空からも撮影します



小松市 一針C遺跡 現地説明会資料

令和3年11月28日(日)
(公財)石川県埋蔵文化財センター

- ◎ 調査地 小松市一針町地内
- ◎ 調査原因 梯川河川改修事業
- ◎ 調査主体 石川県教育委員会（調査担当：(公財)石川県埋蔵文化財センター）
- ◎ 調査面積 4,500㎡（予定）
- ◎ 調査期間 【春期調査】 令和3年4月～同年6月上旬
【秋期調査】 同年10月上旬～12月下旬



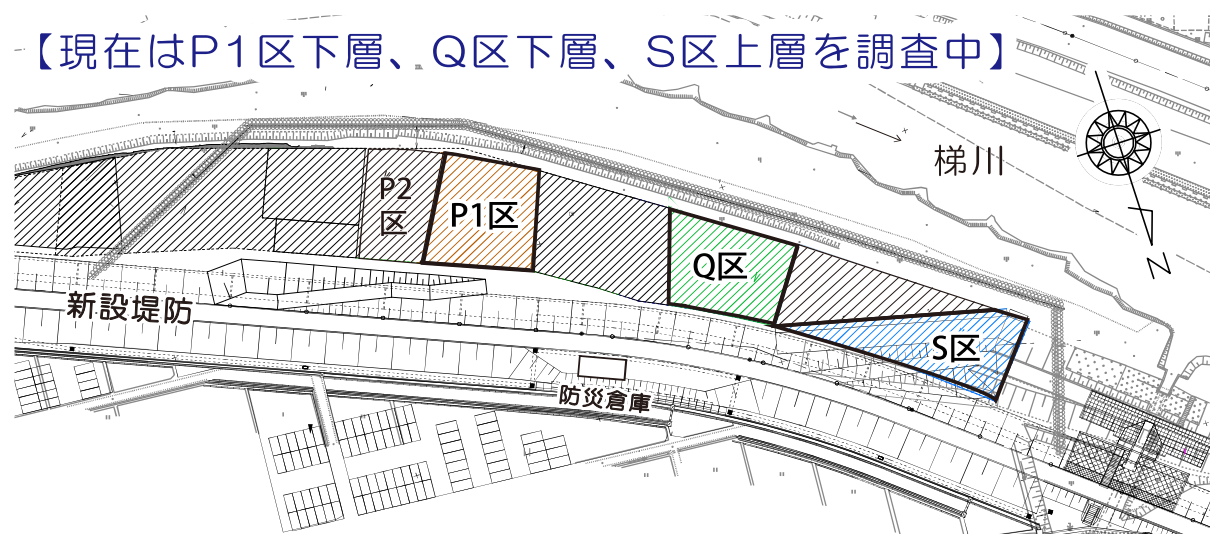
調査地周辺の遺跡

- ①一針C遺跡(古代～中世)
- ②定地坊跡（中世）
- ③一針遺跡（縄文）
- ④一針B遺跡（弥生～古代）
- ⑤千代・能美遺跡（弥生～中世）
- ⑥千代オオキダ遺跡（縄文～中世）
- ⑦千代城跡（中世）
- ⑧横地遺跡（不詳、消滅）
- ⑨千代木村遺跡（近世）
- ⑩白江梯川遺跡（弥生～中世）
- ⑪白江堡跡（中世）
- ⑫漆町遺跡（弥生～中世）
- ⑬白江遺跡（古墳～中世）
- ⑭佐々木遺跡（弥生～中世）
- ⑮佐々木ノテウラ遺跡（縄文～中世）

石川県遺跡年表

西暦	時代	日本の動き	石川県の動き	近辺の主な遺跡	一針C遺跡の活動	時代
10000頃	旧石器	土器の出現 貝塚の形成	丘陵上で石器を使った生活が始まる		旧石器	旧石器
300頃 B.C A.D	縄文	農耕文化が伝わる	定住的な生活のはじまり 大型堅穴住居が出現する	一針遺跡 ③	縄文	縄文
	弥生	金属器の使用 邪馬台国の成立	巨大木柱列がえられる		弥生	弥生
250頃	古墳	方形周溝墓・高地性集落の出現	低地で平地式住居がえられる	八日市地方遺跡 一針B遺跡 ④ 千代・能美遺跡 ⑤ 河田山古墳群	古墳	古墳
710	奈良	玉造集落の形成 前方後円墳がえられる	横穴式石室がえられる	佐々木遺跡 ⑭	奈良	奈良
794	平安	平城京へ遷都 平安京へ遷都	能登国の設置(718) 大伴家持の能登巡行(748)	古府しのまち遺跡 古府シマ遺跡	古代	平安
1192	鎌倉	鎌倉幕府の成立	加賀国の設置(823) 加賀国・能登に国分寺が設置される 加賀郡勝示札がたてられる(849) 山岳信仰が盛んとなる 中世窯業への陶器生産始まる	漆町遺跡 ⑫	鎌倉	鎌倉
1338	室町	室町幕府の成立	白山・石動山などの山岳信仰盛んとなる 港町を中心として集落が発達する	小松城跡・利常公灰塚	中世	室町
1573	安土桃山	室町幕府の滅亡 江戸幕府の成立	山城が築かれる 加賀一向一揆がおこる	八幡窯跡	近代	安土桃山
1603	江戸		前田利家の金沢入城 山中町九谷で陶器を焼き始める		江戸	江戸
1868	明治維新 第二次世界大戦		石川県の誕生(1872)		近代	明治維新 第二次世界大戦

【現在はP1区下層、Q区下層、S区上層を調査中】



調査区割り図

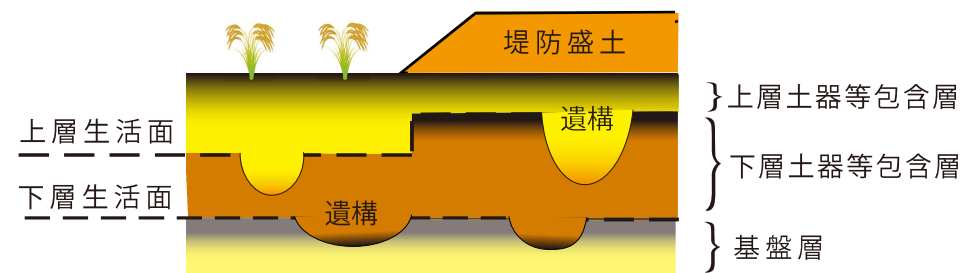
発掘調査の概要

一針C遺跡は、小松市街地東方約2kmの水田地帯中にあり、南北700m、東西350mの細長い範囲に広がる弥生時代～中世の集落遺跡です。各時代の集落は、梯川やその支流沿いに形成された微高地上に営まれたとみられますが、川が大きく蛇行し、幾度もの氾らんによる削平と土砂堆積を繰り返した場所であることから、弥生時代以降、人々が暮らした生活面が何層も重なって残っていました。

発掘調査は平成25年度から始めており、平成25～27年度は堤防設置予定箇所を、平成29年度からは、新設された堤防の内側で発掘調査を行っています。この堤防内側の区域においては、増水時には浸水してしまうことから調査期間が限られており、春期（～5月）と秋期（10月～）に分けた調査となっています。

一針C遺跡は、現在の梯川流路のギリギリまで広がっています。対岸の漆町遺跡とは存続年代や見つかる遺構・遺物が非常に似通っており、一連の巨大集落を成していた時代があった可能性があります。

令和3年度春期調査では、P1・2区上層とQ区上層（ともに中世）の調査を実施しました。P1・2区では大畦畔に囲まれた約40m×25mの長方形の水田や水路を検出し、その周囲やQ区では掘立柱建物や大小の井戸・土坑などを多数確認しました。遺物は、土器・陶磁器のほか、銅製の小坏や石臼、石塔、下駄、漆器椀、ひしゃくなどが井戸から出土しました。10月より始めた秋期調査では、P1区では下層（弥生時代中期～古代）の川跡を、Q区では下層（弥生時代後期～古墳時代末）の集落跡を、S区では上層（中世）の集落跡の調査を行っています。



一針C遺跡の基本層位



春期調査のようす 下流側からP・Q区を望む



春期調査のようす 川側からP区の中世水田跡を望む